

岡崎神社・菅原神社・稲荷神社の関係について

下地町内会

1. 菅原神社とは？

下地地区にある菅原神社ですが、その創立年等は、不明ですが、安藝国の守護武田家の臣、伊藤某がこの地に居住した時に勧請したと伝えられています。

御祭神は、名前の通り、菅原道真公で、学問の神様として、有名ですが、農耕の神、厄除けの神として、地域の安全、五穀豊穰をお祈りしてくれています。

本殿は、昭和49年に再建され、同時に、稲荷神社も移設されています。

2. 岡崎神社とは？

創立年月は、不詳で、旧領主武田氏の家臣、伴五郎繁清の祖先が勧請し、旧伴村、及び旧長楽寺村の氏神でした。延享3年（1746年）に火災で焼失しましたが、現地に再建されています。

3. 氏神様とは？

氏神（うじがみ）神社とは、自らが居住する地域の氏神様をお祀りする神社のことで、この神社の鎮座する周辺の一定地域に居住する方を、氏子（うじこ）と称します。（神社庁 HP より）

4. 下地地区の氏神神社は？

下地地区の氏神神社は、岡崎神社になります。これは、上記の通り、岡崎神社が、旧伴村、及び旧長楽寺村の氏神神社だったことから、そうなっています。

では、菅原神社の立場はどうなるの？ということですが、岡崎神社の飛地子神（とびちこがみ）（又は、飛地境内社）ということになります。伴地区にある、松峰河内神社、下向稲荷神社等の23神社が、そういう立場で、岡崎神社の飛地にある神社ということになり、岡崎神社の一部という関係になっています。（下地稲荷神社も同様です。）

こういう関係の下に、町内会では、岡崎神社の例祭の時にも、お手伝いをお願いしています。

5. 例祭と月次祭（つきなみさい）

毎年、菅原神社例祭が、9月、稲荷神社例祭が、2月に行われています。岡崎神社より神主（かんぬし）さんが来て、神事を執り行っています。

また、月次祭（つきなみさい）として、毎月、菅原神社で、祭典が行われていて、氏神様に、日頃の感謝をし、新たな月の更なる御守りを祈願されています。